

授 業 科 目 の 概 要

(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目	生活支援看護開発学特講	病院および在宅で生活・療養する対象者の健康レベルを適切に評価した上で、健康レベルに応じた生活支援と快適ケア技術の開発と研究に必要な知識と研究技法について修得する。また、健康レベルを正しく評価して実践するためには、各病床機能の特徴や支援体制をふまえ、多職種と連携を図ることが必要である。在宅移行に向けて対象者や対象者を取り巻く様々な健康課題を包括的に捉えてそれを解決するためにどのようなケア技術や社会資源が有効か、ディスカッションしながら必要な知識ならびに実践できる能力を修得する。 (オムニバス方式/全15回)
	地域看護システム開発学特講	組織論や人材育成についての基本的な考え方に関する学修をふまえたうえで、地域包括ケアシステム構築のために課題を抱える実践現場の実態およびケアの質を科学的な視点で分析し、ケア提供施設や地域の特性に応じて、より効果的で効率的な生活支援が実施できる組織間連携も含めたケアシステムの構築について議論する。 (オムニバス方式/全15回)
	地域包括ケア演習	それぞれの研究課題に応じて、中山間地などの地域やその地域の保健・医療・福祉サービス提供機関等を選択し、フィールドワークを行う。フィールドワークの成果と多角的な文献検討を通じて、地域包括ケアの推進に必要な看護技術開発・実践モデルや看護ケアシステム開発に活用できる研究課題を明確にする。 (オムニバス方式/全22回)
関 連 科 目	地域医療学	地域医療の概念、地域医療の歴史について学び、地域医療学は臨床医学や社会医学、基礎医学、社会学などのあらゆる分野の学問が包括された学際的な学問領域であることを理解する。過疎化、少子・高齢化、が進行しつつある現状を踏まえ、地域のなかで、地域医療の在り方、多職種の連携の在り方について学修する。平穏時における救急医療、その後の生活視点における医療の役割についてわかりやすく解説する。 (オムニバス方式/全15回)
	応用統計学	質的あるいは量的な研究において必要とされる統計学の概念、ならびに統計手法について、統計ソフトであるSPSSやSASを用いて学修する。また、論文クリティークを通じてデータを読み取る力を身につけ、統計学に基づく理論的構築の考え方を修得する。基本的な統計学を理解した上で、その応用となる一般線形モデル、共分散構造分析、階層化モデル等を理解し、実践の中で使えるようになるまでを目指す。 (オムニバス方式/全15回)
	研究方法特講	エビデンスを基盤とした最良の地域包括ケアを提供すべく、地域包括ケアに関連するケアやシステムの開発、実践および検証に必要な研究方法を理解し、応用する能力を養う。また、介入研究や疫学研究、エスノグラフィの手法を学修するとともにプレゼンテーションやディスカッションを通して、現象の理解、高度な看護実践およびケア成果の検証につながる研究方法について学修する。また、国際的な場で発表するための手法を学修する。 (オムニバス方式/全15回)
特 別 研 究	地域包括ケア開発学特別研究	地域包括ケアを推進するために様々な発達段階や健康レベルに応じた生活支援方法やケアシステムの開発を目指した研究活動を実施し博士論文を作成する。 ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。 ・収集したデータの分析を行い、博士論文を作成する。